

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	角館総合病院 施設管理業務				
担 当 課 係 名	総務企画 課		総務 係	作成者	富木弘一
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画のページ
	基本計画	地域医療、救急医療体制の整備			
	主要施策	地域医療連携の強化			49
予 算 費 目	市立病院事業 会計		款	項	目
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☒ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	地方公営企業法、医療法				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☒ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	病院の施設維持管理
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	病院施設を適正に維持管理することにより、患者の受入と診療体制に支障がないように努めると共に、維持管理費の削減に努める
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	施設の維持管理業務を実施する。委託化が可能な業務については委託化を進める

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	病院開設日	目標	日	365	366	365	
			実績	日	365	366	365	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	年間入院患者数＋外来患者数	目標	人	275,855	265,865	274,855	
			実績	人	284,055	274,351	253,760	
			達成度	%	103.0%	103.2%	92.3%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				242,843	263,097	294,384	
	人 件 費 (B)		—		39,265	40,355	31,700	
	職 員 数		—		5.00	5.00	4.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A)＋(B) 投下コスト				282,108	303,452	326,084	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				282,108	303,452	326,084
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		772,899	829,104	893,381
市民1人当たりのコスト(円)		—		8,847	9,653	10,504		

【事務事業の今までの成果】

病院施設が老朽化している中で、委託化を進めることにより維持管理に掛かる経費を削減してきた。
管理業務委託済分：院内清掃(厚生ビル管理)・夜警業務及び駐車場整理(個人委託)・基準寝具及び洗濯(秋田基準寝具)・医療機器医療ガス保守(各専門業者)

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	公立病院改革ガイドラインに基づく各自治体病院の改革プラン作成と改革推進計画実行を指示
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 1	A 現状のまま継続(実施)	委託化出来る部門は既に委託化している。今後は、仙北市立病院等改革推進計画に基づき田沢湖病院と協議の上管理業務委託化の一本化を進める
	B 1 見直しの上で継続(拡大)	
	B 2 見直しの上で継続(手段改善等)	
	B 3 見直しの上で継続(縮小)	
	C 1 大幅な見直しの上で継続(拡大)	
	C 2 大幅な見直しの上で継続(手段改善等)	
	C 3 大幅な見直しの上で継続(縮小)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	
	E 終了(完成及び目的を達成し終了した事業)	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

仙北市立病院等改革推進計画に基づき、田沢湖病院と管理委託業務の内容のすりあわせと見直しを進め、一本化を図る

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 1	契約更新時の委託業務内容精査や新規業務委託の検討等、より効率的な施設管理を目指しつつ引き続き推進すべきと考えます。

